令和２年９月１８日（金）５校時

尾道市立浦崎中学校第１学年　英語科学習指導案

指導者：望月　美保

単元　　Unit5　学校の文化祭

New Horizon 1　東京書籍

第１学年　男子１２名　女子８名　計２０名

本単元で育成する資質・能力

主体的に学ぶ力　　思考力・表現力　　つながる知識　　かかわる力

学習指導要領の目標

（４）話すこと[発表]イ「日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。」（５）イ「日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。」

教科等における見方・考え方

外国語で表現し伝え合うため，外国語やその背景にある文化を，社会や世界，他者との関わりに着目して捉え，コミュニケーションを行う目的や場面，状況等に応じて，情報を整理しながら考えなどを形成し，再構築すること。

単元について

単元観：

本単元までに，Unit1,2 において be 動詞を，Unit3 では一般動詞を言語材料として扱っており，生徒はコミュニケーションを図る際に必要不可欠な事項を学習している。しかし，これまでは Yes，No で答えられる一問一答形式であったり，答える文も単文であったりするなど，内容に豊かさや深まりのあるコミュニケーションを求めることはできない。本単元で，疑問詞 what 及び be 動詞の補語である形容詞を言語材料として用いることによって，既習事項を踏まえながらより表現の幅を広げたコミュニケーション活動を行うことが可能になる。題材としては，留学生の出身国であるインドに焦点をあて，日本とインドのカレーの違いを中心に，各国の食文化について取り上げている。生徒にとって身近な食から異文化への興味を持たせ，what を使って質問したり，形容詞を用いて感想を述べたりと，自然な流れで言語材料を導入できる単元である。

生徒観：

1学期期末テストにおいて，疑問文をつくるとき” Do you” か”Are you”か正しい方を選択する問題では，90％の生徒が正しい答えを選ぶことができた。また，“Are you from Fukuyama?”という質問に対して2文で答えるという設問に対しては，次のような結果になっている。

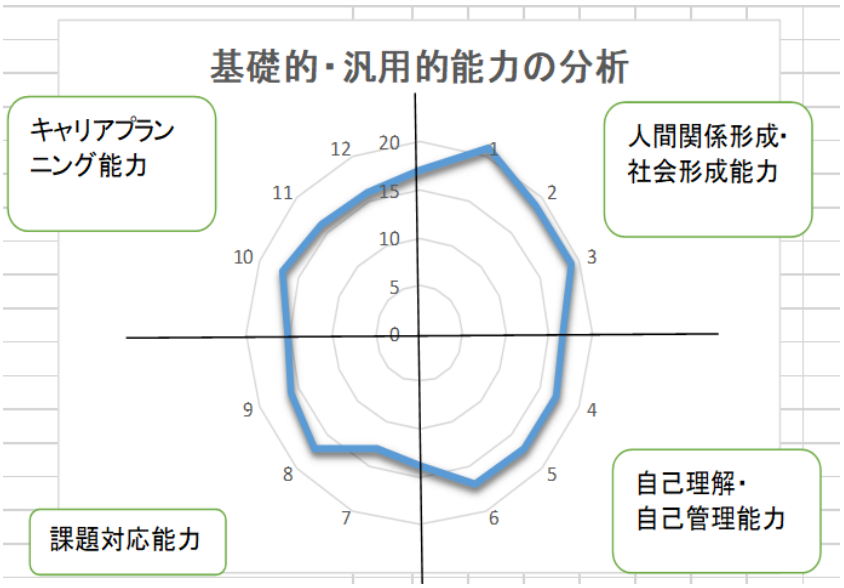
正答	No, I'm not. I'm from Onomichi (Hiroshima).	15名
正答	No, I'm not. I'm not from Fukuyama.	1名
正答	Yes, I am. I'm from Fukuyama.	1名
誤答	no I'm not　I'm from Onomichi	1名
無記入		1名

以上の結果から，多くの生徒がbe動詞と一般動詞の違いを理解して疑問文を作ることができ，簡単な質問に対して，自分の状況に応じてつながりのある2文で答えることができていると考える。小テストや単語テストにおいても，しっかり準備をして取り組める生徒が多い。基礎的なことを理解し，積極的に自分の思いを英語で表現しようとしている。しかし，継続して取り組むことや集中して取り組むことが苦手な生徒は，学習内容に追いつくことが難しく苦手意識を持ち始めている。グループ学習等を取り入れながら,その生徒達をどう巻き込んでいくかが課題である。

指導観：

本単元では，「みんなのことを知ろう，自分のことを知ってもらおう」をテーマに，各グループで考えた質問に対してのクラス全員の答えを円グラフにし，自分の思いを付け加えて結果を発表することができるようにすることをねらいとする。英語学習の中で，与えられた日本語から英訳することはできても，資料から読み取った情報を既習の知識と関連付けて表現することは難しいという実態がある。そこで，1年生の簡単な内容の時から，自分達の身近な内容についての課題解決の場面を設定し，自らグラフを作成することで，それをどう伝えていくかを考える必要性を持たせる。本単元では，言語材料として疑問詞 what と形容詞を扱うので，「何が好きか」など質問をするときや，質問の結果を発表するときに形容詞を使って自分の思いを付け加えるときに活用させたい。

キャリア教育との関連　本単元で重点的に育成したい能力



」

基礎的・汎用的能力の育成（キャリア教育）に係る生徒アンケートを実施したところ，「人間関係形成・社会形成能力」が高い反面，「課題対応能力」の情報の理解・選択・処理が他項目に比べて低い。これは，本学級に「分からないことやもっと知りたいことがあっても，自分から進んで資料や情報を収集したり，だれかに質問したりしてみる」ことが苦手な生徒が多いことと関連している。

そこで，指導者が課題解決の場面を設定し，順序だてて課題解決の道筋を示していく。活動にあたっては，グループで協力しながら行うことで，仲間と共に一つの課題に取り組むことも経験させたい。

浦崎１５年連携教育としてのつながり（単元構想図）

小学校	中学校１年生	中学校２年生	中学校３年生
他者に配慮しながら，好きなことやできることなどについて伝え合おうとする。	初歩的な語彙や表現などを用いて，自分自身のことや体験したことなどについて発表したり，短い会話をしたりすることができる。	身近な話題について，問答をするなどして会話を続けることができる。 さまざまな話題について，情報や意見を正しく伝えることができる。	聞いたり読んだりしたことについて，感想や意見を述べあったり，問答をしたりすることができる。

単元の目標と評価基準

単元の目標	・自分が知らないものなどについてたずねることができる。 ・ものの性質や状態などについて話すことができる。		
ア　コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ　表現の能力	ウ　理解の能力	エ　言語に関する知識・理解
①間違いを恐れず，積極的に活動しようとしている。	①自分が知らないものやことについてたずねることができる。 ②自分の感想などについて話したり，書いたりすることができる。	①what を用いた対話や話者がどう感じているかを述べる文を聞きとることができる。 ②what を用いた対話や話者がどう感じているかを述べる文の内容を読みとることができる。	①What is…？や What do you…？の文とその答え方の形・意味・用法に関する知識を身につけている。 ② be 動詞+補語（形容詞）の肯定文と否定文の形・意味・用法に関する知識を身につけている。

指導と評価の計画（全９時間）

次	学習内容	評価					
		関	表	理	知	評価規準	評価方法
一 1時間	課題の設定 ○単元を貫く課題を知る。 みんなのことを知ろう，自分のことを知ってもらおう 前単元での自己紹介に関連付けて，課題の導入を行う。何についてきいてみたいか考え，その中から疑問詞 what の必要性に気付く。						

次	学習内容	評価					
		関	表	理	知	評価規準	評価方法
	○What is…？の文とその答え方の形・意味・用法を理解する。 「質問されたときや，友達の答えを聞いた時，自分の知らないものがあったらどうきけばいいだろうか」				○	エ①	ワークシート
二 5 時 間	情報の収集 ○本文理解　自分が知らないものについて，何かをたずねたり，たずねられたものについて答えたりする会話を理解する。			○		ウ①②	後日テスト
	情報の収集 ○be 動詞+補語（形容詞）の肯定文と否定文の形・意味・用法を理解する。 「自分の意見を付け加えたいときはどう言えばいいだろうか」				○	エ②	ワークシート
	情報の収集 ○本文理解　形容詞を使って，自分の感想を伝える会話を理解する。			○		ウ①②	後日テスト
	情報の収集 ○What do you…？の文とその答え方の形・意味・用法を理解する。 「好きなものや持っているものなどを質問するときはどう言えばいいだろうか」				○	エ①	ワークシート
	情報の収集 ○本文理解　自分が知らないことについてたずねたり，答えたりする会話を理解する。			○		ウ①②	後日テスト
三 2 時 間	整理・分析 ○What is…？What do you…？の文の形・意味・用法の違いを整理し，理解を深める。 ○クラスのみんなに聞いてみたい質問をグループごとに考える。 ○グループ内ではインタビュー活動を行うが，全体では密をさけるため，アンケート方式で質問に答える。 整理・分析 ○小学校で学習した形容詞も音声から思い出させる。 ○アンケート結果から，自分たちのグループの質問について円グラフをつくる。	○ ○			○ ○	エ① イ① エ② ア①	ワークシート 観察 観察 ワークシート
四 本 時	まとめ ○グラフについての情報に，自分の感想を付け加えて述べる。	○	○			ア① イ②	観察 ワークシート

本時の学習

（1）本時の目標

自分達で作成したグラフについての情報に自分の感想を付け加えて述べることができる。

（2）準備物

・グラフ　・ワークシート　・ホワイトボード　・テレビ

（3）学習の展開

学習活動	指導の留意点や指導事項 （〇留意点　☆言語活動 ●「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て） （◆支援を要する生徒への指導の手立て）	評価規準［観点］ ★資質・能力（評価方法）
＜導入＞ 1　あいさつ Chat time ・ペアでのやりとり 2　既習事項の確認 ・教師からも数人の生徒に質問し，全体での口頭練習につなげる。 3　課題設定 ・先生へのアンケート結果の提示 ・円グラフの提示と説明	〇英語を話しやすい雰囲気をつくる。What を使った文を chat のテーマとする。 ◆会話の型を黒板に示す。 〇“〇students like 〇“のように言うことで，本時の活動につなげていく。 〇結果からどんな質問をしたか考えさせる。 ◆グラフと例文を実際に見せながら話すことで，本時の活動をイメージしやすくする。	

質問: What do you have for breakfast?

（例）In Urasaki Junior High School, six teachers have rice and miso soup. Three teachers have toast. One teacher has cereal. I have rice and miso soup every morning. I like rice. It’s delicious.

4　課題意識をもつ ・学習課題と目標の提示	学習課題　みんなのことを知ろう，自分のことを知ってもらおう	

Today’s Goal: グラフについての情報に，自分の感想を付け加えて言うことができる。

＜展開＞ 5　各班が事前に作成したグラフをそれぞれホワイトボードにはる。	○かがやき学級の生徒にも事前にアンケートをしておく。	
6　説明の仕方を班で確認する。☆集団思考	○教え合いを促す。	★かかわる力
6　アンケート結果を受けて，自分のことで付け加えられることを考え，ワークシートに記入する。☆個人思考	◆付け加えられる文の例を提示する。 例 好きな教科の場合 ・I like P.E,too. I play baseball. I practice baseball every day. ・In this class, many students like P.E, but I like English. It's difficult but it's interesting.	★つながる知識
7　それぞれが書いた文を班で交流する。 8　班の代表者がグラフを見せながら発表する。	○三人称単数の s が必要な文も出てくることが予想されるが，次の課での学習内容なので軽くふれ，途中で訂正したりはしない。	★思考力。表現力 イ②アンケート結果について自分と関連付けながら書くことができている。（ワークシート） ア①間違いを恐れず積極的に活動している。 （観察）

例　What sport do you play? の問いに対して

（A 評価）接続詞や形容詞を用いて，アンケート結果と自分を比較しながら．自分のことと関連付けて話題を広げることができる。（事実+自分のこと+感想など，の 3 つの観点から書いている）
Ten students play tennis in this class. But I don't play tennis. I play baseball. It's interesting. I practice baseball every day.

（B 評価）自分のことと関連付けて話題をひろげることができる。（事実+自分のこと，など２つの観点から書いている。）
Ten students play tennis in this class. I play baseball. I like baseball.

（C 評価）自分の答えのみである。（自分のことのみ，など１つの観点から書いている。）
I play baseball.

＜まとめ＞ 9　振り返り	○本時の振り返りを記入する。	・グラフと自分のことをつなげて文を考えることができた。自分が質問されたときも感想などを付け加えて会話をつなげていきたい。

（５）　板書計画

Today's Goal　グラフについての情報に，自分の感想を付け加えて言うことができる。

Today's Task　みんなのことを知ろう，自分のことを知ってもらおう

Friday
September
eighteenth
Sunny

グラフの例

例文

生徒ホワイトボード

単元を貫く課題の設定等における工夫（興味関心を高めるために）

（１）設定した「課題」

単元を貫く課題

１年１組なんでもランキングをつくろう

（２）課題設定や提示方法における工夫

課題設定においては，学習のつながりを意識した。生徒は，前課で自己紹介文を作成している。そのとき出てきた好きな教科やするスポーツなどについて，クラスでまとめるという形で本単元の課題を導入する。疑問詞 what については，本単元では what do you～？の形のみの扱いであるが，小学校外国語活動の中で what +名詞の形には親しんでいるので，活動の中で使用しても生徒に負担は少ないと考える。また, what+名詞の形の語順の定着がしにくいことからも，繰り返し活動の中で使っていく必要がある。活動の中で，三人称単数の s を使わなければならない場面が想定されるが，間違いを訂正することにこだわらず，簡単にふれていくことで次の単元の新出文法である三人称単数の学習への布石としたい。自己紹介，それをまとめるための疑問詞を使った質問，それを発表するための三人称単数の s の学習，と必然性を持たせながら，次のステップへと進ませていきたい。

（３）「単元を貫く課題」をできるようにするための特徴的な工夫

単元計画

次	内容
1	生徒自身の自己紹介から身近な課題を設定し，興味を持たせる。
2	課題を達成するために必要な表現を考えながら，新出文法を導入していく。
3	本単元での学習内容を整理し， 理解させる。グループ内では，インタビュー活動を行い表現に慣れさせる。グループ活動の中にグラフを作る作業を入れることで，英語が苦手な生徒や集中することが難しい生徒も活動に参加しやすくする。
4	先生へのアンケート結果を例として紹介することで，興味づけを図ると共にまとめ方についてのイメージを持たせる。